

### 会員紹介……災害に力を合わせて立ち向かおう……

#### 一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

代表者：代表理事 市原 信行  
 所在地：〒242-0021神奈川県大和市中央1-4-4  
 ウイングマンションファルコン208  
 活動拠点：〒242-0018 神奈川県大和市深見西1丁目2-17  
 大和市市民活動拠点ベテルギウス2階2-17  
 電話番号：046-244-5260(代) 046-261-1956(FAX)  
 090-9349-5410 (携帯)  
 H P : <http://ysvn.web.fc2.com/>  
 E mail : [ysv0401@yahoo.co.jp](mailto:ysv0401@yahoo.co.jp)

#### 普段の活動



大和をはじめ県央、県内での防災減災活動を行い、高校生や大学生との福祉防災研修事業を毎年8月に宮城県へ被災地研修と被災地学生との交流事業を、3月は被災高校生を神奈川県にお招きし神奈川県内の高等学校で福祉防災研修（語り部など含む）、また地域自治会での防災研修、訓

練、社会福祉協議会との防災研修などを行っています、近年の全国的な自然災害への支援活動も行い、2019年台風15号19号での被災地支援活動、相模原市緑区藤野地区では現在でも支援活動を行い、2020年7月豪雨災害では熊本県球磨村渡地区と山形県中山町への自治会や保育園、仮設住宅支援なども行っています、



311被災地支援では宮城県の児童養護施設の児童達を石巻網地島へお招きして毎年震災関連の児童支援を継続で行っています。

神奈川県内の災害ボランティア力の向上のための技術取得や技術の向上、ICTの有効活用を共に行い、資機材等も確保し備えも行い、活動者（個人、団体含）との、SVC運営支援やSVの安全衛生、技術向上を目指し、県内連携を強く推進しV力の向上を目指します。

#### 補足

防災・減災力は地域で行うことが大切  
 災害ボランティアは技術力（IT/技術含む）をV力=ボランティア力

#### 神奈川県生活協同組合連合会

代表者：代表理事会長 當具 伸一  
 所在地：〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9階  
 電話番号：045-473-1031 045-473-9272(FAX)  
 H P : <https://coopkana.jp/about/>

1995年1月17日に発災した阪神淡路大震災。神奈川県生協連では大規模な災害が発生した場合、県と生協が協力連携して県民生活の安定のために必要な支援ができるように、阪神・淡路大震災が発災した直後の1995年4月18日に「災害時における県民生活の安定に関する協定」を締結しました。また大規模災害対策委員会を設け、毎月MCA無線通信訓練を行い、BCP（事業継続計画）の作成を



はじめとする大規模災害への備えの活動を行っています。

災害時に協定が確実に機能するようにと、県との懇談会を定期開催しているほか、政令市との懇談会も行っています。大規模災害における生協の役割は3点、①県民生活を安定させるために1日も早く商品供給（店舗・宅配）を再開すること、②組合員一人ひとりの大規模災害への備えを充実させること、③助けあいの心を広げることです。

県内のすべての生協店舗は、災害時帰宅支援ステーションに登録しています。



東日本第震災 復興支援まつり

#### 備えておこう、自分たちでできることから

災害とは、「自然現象や人為的な原因によって、人命や社会生活に被害が生じる事態を指す」と定義されています。21世紀になって日本で起きた災害種別も、豪雨、台風、地震、猛暑、噴火、豪雪、原発事故と多様で、激甚化しているようにも思われます。大災害はこれだけ毎年続いているのですが、備えは充実してきているのでしょうか。更に私たちは新たな経験をしています。そう、感染症です。慶応義塾大学の前野隆司教授は、「withコロナ」時代について、幸福学の知見から伝えたいキーワードとして「つながり」を挙げられています。意識して会話を交わす。互いに励まし、手助けし、感謝する。孤立しそうな人を取り残さない。そうした人と人のつながりが安心感をもたらし、危機においても創造性や気力を湧き立たせてくれると。つながりは心の生活必需品です。私たちも災ボ活動にとらわれず、つながることに知恵を絞りましょう。

(広報委員：大田哲夫・田口謙吉・石田昌美・丸山善弘)



# 神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク  
 〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9階  
 ☎045-473-1031 ☎045-473-9272 URL <http://ksvn.org>



宮城県丸森町ボランティアバス第2便(2020.1.11)活動の後に



## 理事長就任のご挨拶

NPO法人  
 神奈川災害ボランティアネットワーク  
 理事長 河西 英彦

盛夏の候 各位におかれましてはご清栄のこととお慶び申し上げます。

西日本豪雨災害・昨年の台風災害の支援活動半ばでの、「新型コロナウイルス」蔓延は、かつてない危機的災害となっています。有効な治療薬・予防ワクチンの開発も定かではなく感染防止の自粛生活のため、今年度の総会は紙面・電磁採決とさせて頂きました。会員各位のご協力により無事令和2年・第9回総会が成立いたしました。総会開催に際し、紙面・電磁総会にも関わりませず、元防災担当小此木大臣を始め国県市会及び関係各位より多くのご祝辞・ご挨拶を頂戴いたしました。衷心より感謝申し上げます。

凶らずも第3期目の理事長を仰せつかり身の引き締まる思いとともに、初心に帰り持続可能な活動団体として、合議性に基づくネットワーク運営を確立することを願っています。

昨年の県内被災地への支援活動の課題解決のため、プロジェクトを委員会に立ち上げ、実践に即したマニュアルの改正に伴う検討会を進め、支援から受援活動への一体的な災害支援対策を進めてまいります。個人・団体のネットワークの一層の推進が不可欠となっています。

コロナ禍の中、線状降水帯による豪雨災害が九州から岐阜・長野に至るまで被害が拡大しています。災害により亡くなられた皆様に哀悼の意と被災された皆様にお見舞い申し上げます。

熊本の「火の国会議」にオンラインにてオブザーバー参加しています。

即日、国の要請により自衛隊・消防・医師団等の災害救助が展開されています。熊本地震時にはいち早く、西原村・益城町・阿蘇町等に支援に駆け付けま

した。残念ながらコロナ感染予防のため、今回は現地でのボランティア支援は難しい状況です。情勢を注視しながら、何らかの支援をさせて頂くことを考えています。

被災地では復旧のための作業は地域の連携で行われ、人命救助・生活支援の段階であり限られたボランティア活動となっています。山間の地形も外部からの支援を妨げて、アクセスもルートが少なく既に早朝より渋滞が常態化しつつあることが報告されています。

会議の中、情報の収集は村落との連携が福祉協議会の存在感を増している中、集落・部落・町内会・自治会との連携の（緊急情報のシステム化）必要性が課題となっています。5日目にして孤立（被災情報が定かでない）地域が多数あり徒歩収集のため把握に時間を要しているとともに、今日9日現在も降雨の予想が広範囲に出ており復旧を拒んでいます。

コロナ禍のボランティアセンターの運営・避難所の運営、大きな課題を抱えながら、一日も早い広域支援体制が望まれるとともに、我がこととして備えを模索し充実してまいります。

ウイルスとの二重の災害にICTの活用、Web会議等欠くことのできないツールとなっています。本年の大きな課題であり、最重要活動として取り組んでまいります。

本年も災害列島日本は免れることはできない、予断なき準備が必要となっています。

会員各位・関係団体・多くの支援者の皆様のご指導ご鞭撻を頂戴し、神奈川県安全・安心の一石とらんことを願っています。

末筆ながら皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

### 2020年度第9回定期総会電磁書面評決にて開催される

2020年6月9日(火)に開催しました特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク2020年度第9回定期総会は、新型コロナウイルス感染予防のため電磁書面評決で行われ、全ての議案は可決されました。

加盟団体：34 個人：3 参加団体：31 個人：1  
理事定数：11 出席理事：4 電磁評決7(全員参加)

- 第1号議案 2019年度活動報告 可決 賛成：11
- 第2号議案 2019年度決算報告・監査報告 可決 賛成：10 保留：1
- 第3号議案 2020年度活動計画案 修正可決 賛成：10 保留：1
- 第4号議案 2020年度予算案 可決 賛成：9 保留：2
- 第5号議案 2020・21年度役員改選候補者 可決 賛成：11
- 第6号議案 その他 修正案を検討

### ◆ 2019年度 活動・決算報告 (抜粋)

①ビッグレスキュー神奈川伊勢原、神奈川大磯津波対策訓練、神奈川県災害救援ボランティア支援センター立上げ訓練等の防災訓練

- 8月31日 ビッグレスキュー伊勢原 参加者300名
- 11月9日 神奈川県大磯津波対策訓練 参加者38名
- 3月18日 4者協賛支援センター情報訓練 参加者30名



ビッグレスキュー伊勢原にて会場案内をする高坂事務局長



津久井地区ボランティアセンターと活動

- 11月30日・12月8日 栃木県佐野市災害ボランティアバス派遣 合計2便 28名参加
- 12月21日～2月1日 宮城県丸森町ボランティアバス派遣 合計4便 113名参加



栃木県佐野市でボランティア活動



丸森町へのボラバス第3便にて

②内閣府三者連携研修会・情報共有会議主催支援、各種全国災害フォーラム、静岡県災害図上訓練等への参加

- 11月14日 神奈川情報共有連絡会議 参加者40名
- 12月3日 内閣府・三者連携研修会 参加者100名
- 2月21日 静岡県災害図上訓練参加 参加者5名



常葉大学静岡草薙キャンパスにて

③台風15号及び19号の被災地支援ボランティアバス派遣事業

- 9月21日～11月30日 千葉県富津市へ災害ボランティアバス派遣 合計9便 228名参加



富津市へのボラバス第3便にて

- 11月2日～11月16日 相模原市津久井地区災害ボランティアバス派遣 合計4便 70名参加
- 11月17日 相模原市相模湖地区災害ボランティアバス派遣 第1便 20名参加

④川崎市災害ボランティアセンター、相模原市災害ボランティアセンターへの支援事業

- 10月16日～11月2日 川崎市で災害ボランティア活動 合計65名参加
- 川崎市災害ボランティアセンターへ最後までスタッフ派遣 5～10名参加
- 10月20日～23日 箱根町で災害ボランティア活動 15名参加

⑤情報ネットワーク化、デジタル対応強化事業

- 8月8日 D I T S 講習会開催 25名参加
- 8月31日 ビッグレスキュー伊勢原で現地と支援室において情報伝達訓練を実施



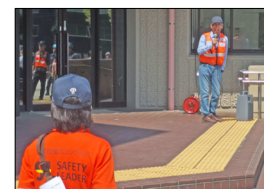
ビッグレスキューにてDITSを検証

- 11月9日 神奈川大磯津波対策訓練にてDITSを検証38名参加

3月18日 4者協定による会合にて神奈川県災害救援ボランティア支援センター立上げ情報訓練を実施 30名参加

⑦各委員会の取組

- 5月11日 防災ギャザリング開催 300名参加
- 5月21日 災害ボランティア全国フォーラム参加 3名参加
- 8月3日・10日・24日 防災ギャザリング 植山副代表の挨拶 コミュニティカレッジ「災害時ボランティア活動実践トレーニング」開催 20名参加
- 9月22日・23日・29日 災害情報要員講習会の開催 10名参加



防災ギャザリング 植山副代表の挨拶

### ◆ 2020年度 活動・予算計画 (抜粋)

新型コロナウイルスの感染拡大が終息する見通しが立たない中「コロナ時代の生活様式」が求められ、「テレワーク・Web会議」などのICT活用の時代に突入している。インターネット委員会を中心に本格的に研修を積み、賢く発信することで連携を構築していく必要があります。

基本的方向

- ①神奈川における災害時に救援活動を行うボランティアに、県内の地域ボランティアとそのネットワークを会し、連携を図り災害時に効率的な活動が出来る体制を作る。
- ②委員会方式の採用と強化。
- ③人材の募集と育成を推進し、一定レベルの知識と技能を習得した災害ボランティアを増やす。
- ④全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)等との連携。
- ⑤神奈川大学との連携に努め学生の参加を目指す。
- ⑥神奈川県災害対策に連動した受援力強化を図る。
- ⑦各事業を確実に遂行するため、事務局の強化を図る。
- ⑧運営委員会の定期的開催により顔の見える関係と

### ◆ 役員選任 2020～2021年度役員

役職名	氏名	所属団体名	役職名	氏名	所属団体名
1 理事長	河西 英彦	横浜災害ボランティアネットワーク会議	9 理事	市原 信行	(一社)やまと災害ボランティアネットワーク
2 副理事長	植山 利昭	川崎・災害ボランティアネットワーク会議	10 理事	沢田 健介	神奈川レスキューサポート・バイクネットワーク
3 副理事長	清水 幸次	横須賀災害ボランティアネットワーク	11 理事	黒川 安之	生活協同組合ユークロップかながわ県本部
4 副理事長	高坂 徹	かながわ災害救援ボランティア支援サポートチーム	12 理事	前川 吉和	(特非)神奈川県歩け歩け協会
5 理事	大野 順一	日本赤十字社神奈川支部防災ボランティア推進会議	13 理事	荒井 一之	かながわ災害ボランティアバスチーム
6 理事	大田 哲夫	(特非)藤沢災害救援ボランティアネットワーク	14 監事	川辺 裕子	(特非)都市防災研究会
7 理事	福田 博	海老名災害ボランティアネットワーク	15 監事	原田 昌義	神田交通(株)
8 理事	吉田 見岳	葉山災害ボランティアネットワーク			

### 2019年度 収支決算概要

2019年4月1日～2020年3月31日 (単位：円)

科目	金額	
1、経常収益		
・受取会費	343,000	
・受取寄付金	1,010,000	
・受取助成金	3,919,400	
・その他収益	804,302	
経常収益計		6,076,702
2、経常費用		
・事業費計	4,560,726	
・管理費計	475,476	
経常費用計		5,036,202
当期正味財産増減額		1,040,500
前期繰越正味財産額		2,414,656
次期繰越正味財産額		3,455,156

### 2020年度 予算概要

2020年4月1日～2021年3月31日 (単位：円)

科目	金額	
1、経常収益		
・受取会費	342,000	
・受取寄付金	0	
・受取助成金	1,810,000	
・その他収益	100,000	
経常収益計		2,252,000
2、経常費用		
・事業費計	1,185,000	
・管理費計	920,000	
経常費用計		2,105,000
当期正味財産増減額		147,000
前期繰越正味財産額		3,455,156
次期繰越正味財産額		3,602,156